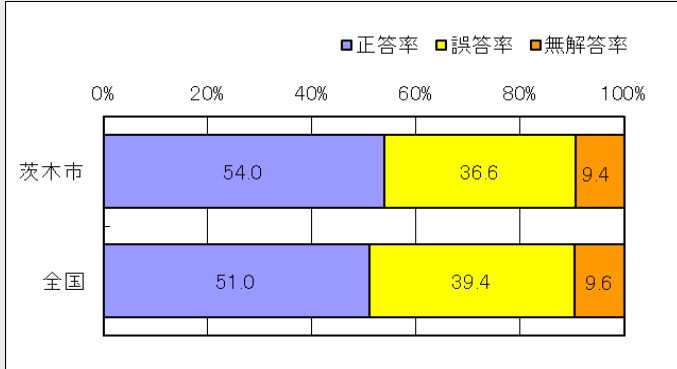


## 正答率比較

### 平均正答率は、全国を3.0ポイント上回った

令和5年度 中学校数学 正答率等比較

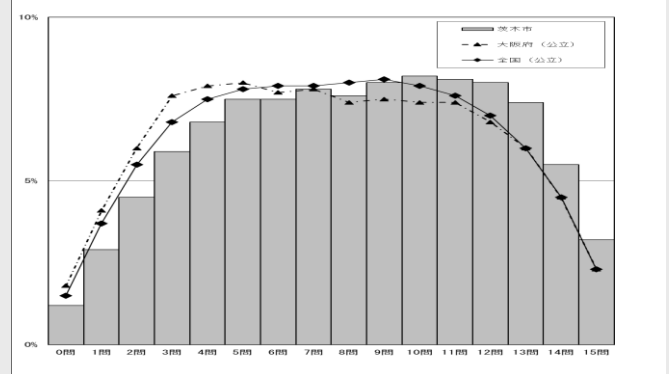


- ◆ 全国の平均正答率が 54.0%であるのに対し、茨木市では 51.0%で、全国を 3.0 ポイント上回った。
- ◆ 誤答率については、全国より 2.8 ポイント低い。
- ◆ 無解答率については、全国より 0.2 ポイント低い。

## 正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側にかたよりのある山型である

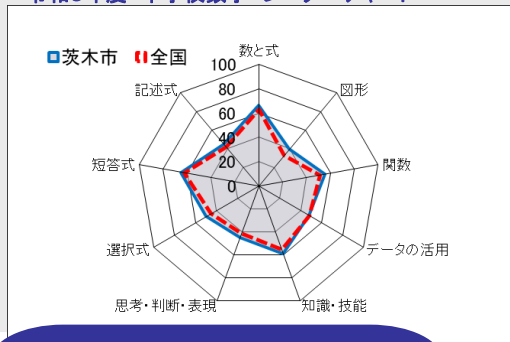
令和5年度 中学校数学 正答数分布グラフ



- ◆ 全国は9問、茨木市は 10 問正解の生徒の割合が最も多い。
- ◆ 正答率 40%以下(0~6問正解)の生徒の割合は 36.3%である。(内 20%以下(0~3問正解)の生徒の割合は 14.5%)
- ◆ 正答率 80%以上(12~15問正解)の生徒の割合は 24.1%である。

## 領域・観点・問題形式別

令和5年度 中学校数学 レーダーチャート



## 「図形」「関数」で良好である

良好な項目	より改善したい項目
図形 関数	データの活用

- ◆ 「図形」については、平均正答率が全国平均よりも6%以上高く、良好な結果となった。「データの活用」については、平均正答率が全国平均よりも若干低い結果となった。

## 課題があった設問

○複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるか

### どうかをみる問題(正答率 32.2%)

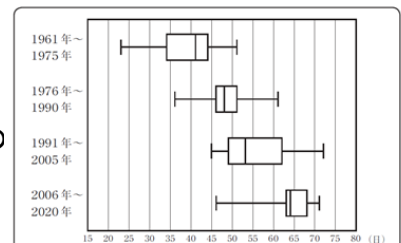
□イチヨウの木の大部分の葉が黄色に変った最初の日を黄葉日といいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。(略)

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。」  
 啓太さん「でも、1991年~2005年と2006年~2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」  
 一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年~2020年の黄葉日は、1991年~2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年~2020年の黄葉日は、1991年~2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年~2005年と2006年~2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

(解答例) 1991年~2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年~2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年~2020年の黄葉日は、1991年~2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

黄葉日までの経過日数の分布



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年~1975年	23	34	41	44	51
1976年~1990年	36	46	48	51	61
1991年~2005年	45	49	53	62	72
2006年~2020年	46	63	64	68	71